

患者の皆様へ

2019年3月12日

婦人科

現在、婦人科では、「術後乳び腹水に対する白米を中心とした超脂質制限食の有用性に関する後方視的検討」に関する研究を行っています。今後の治療に役立てることを目的に、この研究では2013年1月1日より2018年12月31日までの間に、子宮体癌と診断され、後腹膜リンパ節郭清を受けた方の診療情報などを利用して頂きます。診療情報などがこの研究で何のために、どのように使われているのかについて詳しく知りたい方は、下記の窓口にご連絡ください。

1. 研究課題名 「子宮体癌術後の乳び腹水に対する白米を中心とした超脂質制限食の有用性の後方視的検討」

2. 研究の意義・目的

婦人科手術後に、乳び腹水が発症することがあります。これは術後に食事を開始し、食事に含まれる脂肪成分が郭清したリンパ管の断端から腹腔内に漏れ出すことで起こる合併症です。腹腔内への脂肪分の流出、リンパ液の増加とそれに伴う低たんぱく血症により、さまざまな弊害起こることがあり、治療が必要です。治療の基本は、絶食と点滴です。絶食にして脂肪分を口から取らないことで、腹腔内に漏れ出す脂肪分をなくしてリンパ管が自然にふさがるとを待ちます。しかし、長い絶食期間はつらく、体にも負担となります。

そこで、当科では、絶食治療を試みる前に、脂肪分を極力減らした超脂質制限食（白米が大部分です）による治療を試みています。この治療で改善すれば、絶食治療は行わずに済むというメリットがあります。超脂質制限食は、白米が中心ですので無理なく摂取することができます。今回、これまで当院で乳び腹水で治療した患者さんの情報を収集して、治療の効果を検討します。

3. 研究の方法

2013年1月1日より2018年12月31日までの間に、後腹膜リンパ節郭清を受けた方と術後に乳び腹水を発症した方を対象としています。あなたが治療を受けた超脂質制限食の内容、経過、副作用、予後情報などについて、診療録（カルテ）から抽出して集計します。具体的な調査項目は下記のとおりです。

【調査項目】

- ① 患者背景（年齢、臨床進行期（FIGO stage））
- ② 手術内容（摘出リンパ節個数、手術合併症）
- ③ 術後乳び腹水の治療内容（通常の点滴による栄養管理、経口摂取による栄養管理内容、ドレーン廃液中の中性脂肪濃度とその変化）
- ④ 術後診断（病理診断、pTNM、術後合併症）
- ⑤ 予後（乳び腹水の再発の有無、再発確認日）

4. 個人情報の取り扱いについて

本研究で得られた個人情報は、匿名化して管理し外部に洩れることのないように厳重に管理します。研究成果の発表にあたっては、患者さんの氏名などは一切公表しないこととします。データ等は、千葉大学大学院医学研究院生殖医学教室の鍵のかかる棚で保管します。

5. 研究に診療情報などを利用して欲しくない場合について

ご協力頂けない場合には、原則として結果の公開前であれば情報の削除などの対応をしますので、下記の窓口にご遠慮なくお申し出ください。

文部科学省・厚生労働省による「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」に基づいて揭示を行っています。

研究実施機関 : 千葉大学医学部附属病院婦人科

本件のお問合せ先 : 医学部附属病院婦人科

千葉大学大学院医学研究院生殖医学 塙 真輔/三橋 暁/生水真紀夫

043 (222) 7171 内線 6983 婦人科外来

043 (226) 2121 内線 5312 婦人科医局

研究代表機関 : 千葉大学医学部附属病院婦人科

研究代表者 : 三橋暁

